



## 日本イーストウエストセンター同友会 The Japan EWC Association

ニューズレター 第15号

### ご挨拶

渡辺 晴子



この度、川畑泰会長  
と会員の皆さまのご推  
挙により日本イースト  
ウエストセンター同友会 1996-97 年  
度の会長をお受けする  
ことになりました。ジャパ

ンタイムズ報道部長という激職の中で、本同友会のためにご奔走下された川畑会長、業務多忙にも係わらずボランティア頂いた役員、幹事の皆さま、本当にありがとうございました。

創立会員、顧問、幹事の方々のご苦勞を思い起こしますと、身が引き締まる気が致します。一生懸命勤めさせて頂きますのでご忠告、ご支援のほどをお願い申し上げます。

East-West Center と私の出逢いは約 20 年前、1977 年に遡ります。1975 年の夏、国連婦人年メキコ会議では世界の女性たちがメディアに対して女性表現を見直し、もっとダイナミックな女性像を伝えるよう求めました。Center ではこれに応えて 1977 年にアジア・太平洋地域の国際研究所としては初のジェンダーの視座を取り入れた「メディアと社会メキコ」を開きました。

丁度、HKW ビデオ・ワークショップが女性政治家市川房

枝さん、女性放送ジャーナリスト江上アツさんたち女性先駆者インタビューを前年に完成させたところだったので、私もパネリストの一人として招待されました。ビデオを上映し、映像による女性史作りについてお話しさせて頂いたのを思い出します。

その後は、Unesco の委託による太平洋の女性ジャーナリストの調査や同じく太平洋地域のメディア・セミナーの予備調査等で Center の Communication Institute に立ち寄りました。それから 15 年近く HKW のメディア研究と研修を続け、また 1981 年よりはアジア新聞財団データベースで開発問題を中心に報道しておりました。ところが、1991 年、思いもかけず Center の Mary Morgan Hewett Memorial Fund より International Award for Outstanding Achievement in Journalism を受賞しました。

賞金の小切手の方は私は裏書をただけで、そのまま新校舎建設中の母校、School of Journalism, University of Missouri に渡ってしまいました。ところが、「点を返せ」ということが、ご指名の理由の一つになっているようです。

さて、本同友会の現状ですが、会員相互の交

流と親睦という創立目的を徐々に実行できるようになりました。具体的には2年に1回の会員名簿発行、1年に2～3回のニューズレター配布、さらに随時に講演会、親睦会などを行っています。

名簿には約1,000名をリストし、本部会員209人、支部会員15名、合計224名の方々に会費を納入して頂いております。(尚、沖縄には独立した同窓会もあります。)

創立会員のポケットマネーを資金として発足した本同友会も名簿、ニューズレター担当幹事の方々のお骨折りとジャパンタイムズのご協力で1995年度は繰越金を100万円の大台に乗せることが出来ました。お蔭様で今年度も安心して活動を継続することが出来ます。

今期の目標としては本同友会の活動を各支部にまで拡げると共に、East-West Centerへの協力も更に深めて行きたいと存じます。会員の皆さまのご忠告とご支援を重ねてお願い申し上げます。

(わたなべはるこ

HKW代表 アジア新聞財団東京支局長)

## 1995年度JEWCA総会報告

1995年度日本イースト・ウエストセンター同友会総会は12月9日東京・学士会館にて開かれました。当日は、19人の出席があり、その他委任状多数をもって開会が宣言されました。冒頭、川畑会長から1995年度の活動についての報告

があり、今年度は名簿作成の年にあたり、8月1日付で発行されたことが報告されました。今回も名簿の原稿から印刷まで、中村正枝副会長の献身的努力があったことが披露され、感謝の言葉が贈られました。

つづいて事務局からは会計の報告があり、11月末までに224名の方から会費の振り込みがあったこと、会費はおもに名簿とニューズレターの発行経費に当てられたことが説明され、満場一致で承認されました。

また、関西支部長の斎藤栄二氏からは、支部活動が活発に行われていること、また阪神・淡路大震災において被災された学生への募金活動を行なっていることが紹介され、東京在住の会員への協力が要請されました(事務局からの提案により、本総会会費の余剰金を募金にあてることとしました)。

つづいて、川畑会長から役員任期の終了が報告され、次期会長として渡辺晴子幹事が推挙され、満場一致で承認されました。渡辺新会長はジャーナリストとして世界的な活躍をされているとともに本会幹事としても長年貢献されております。

総会終了後は懇親会に移り、ゲストのサム・シェパード氏(日米教育委員会、67年度会員)から今後の日米教育交流の展望についてのスピーチが行われました。シェパード氏は日英両語で、豊富な体験を語られるとともに、今後はもっといろいろな分野に日米の交流が広がるべきではないかとの提案をされました。

## 1995年度 日本イースト・ウエストセンター同友会会計報告(1995.12.9)

項目	支出	収入
<b>収入の部</b>		
繰越金		721,892
銀行口座		6,842
郵便振替口座		585,334
郵便振替口座(2)		69,700
手持ち現金		60,016
会費収入		1,090,000
(本部:5,000円*209名)		1,045,000
(支部:3,000円*15名)		45,000
広告収入(ジャパンタイムズ)		100,000
小計		(1,911,892)
<b>支出の部</b>		
名簿発行費用	271,405	
ニューズレター第14号発行費用	232,261	
総会出欠葉書代	113,600	
支部補助金	74,000	
事務経費(郵便代など)	9,696	
事務局経費(電話代交通費など)	120,000	
小計	(820,962)	
繰越金	1,090,930	
銀行口座		190,125
郵便振替口座		820,334
郵便振替口座(2)		69,700
手持ち現金		10,771
合計	1,911,892	1,911,892

1995年12月9日

上記の通り相違ありません。

会計 浜野 潔 印  
 会計監査 鑑江龍一 印

1995年度日本EWCA会費納入会員ご氏名

(年度別、納入順、1996年5月末現在)

[61年度] 伊藤侑徳 橋本光郎 上山英一 石沢能子 石島 英 中司 哲 新井龍二 大藤芳則 須藤 淳 吉國 隆 丸尾 讓	豊田久承 徳永淳三 矢野安剛 [64年度] 金子洋子 小林英治 池本 明 中村正枝 田中一郎 逸見謙三 富士 裕 湊 和夫 上村和子 門田光雄 村上嘉一 稲葉 厚 地阪隆三 三輪公忠 高田 諭 青井 潔 中野圭二 崎原盛造	北野康子 茅野直子 加藤素男 宮城文三 後藤修三 坂下昌朗 国師三起子 迎町路美子 [67年度] 飯田 実 松岡 弘 山田 功 柳沢慧二 菊池泰之 藤田文子 角佳余子 小野昭一 芦田友秀 堀内弘子 西川敏之 前沢 勲 [68年度] 仲野英志 片島保志 山内昌和 池原善一 渡辺偉夫 高橋正夫 屋比久武 塩入 激 大西駿二 安江国浩 田中 擴 高梨庸雄 [69年度] 土井正生 金井道夫 堀口久生 林 孝雄 松本宣光 渡辺信一 横田安夫 神保尚武 堀口純子	辻 陽一 山脇 孝 松本一之 宮川佳三 [70年度] 鈴木良子 松崎洋子 吉田義法 中田清一 桂 共太郎 [71年度] 石原 滋 大井健次 田代茂夫 斎藤栄二 八木近直 矢嶋尚和 大内 博 川合宏之 椿 弘次 菅原 通 上田 達 斎藤栄二 宮本明尚 尾形国治 [72年度] 高島昭一 石塚嘉一 大内茂男 岩田 紀 羽田野正美 [73年度] 田中靖政 下島俊雄 宮崎公江 勝呂 讓 外池滋生 林 雄二郎 [74年度] 田中春美 中野貞三 後藤和彦	寛 壽雄 杉田 稔 森戸由久 野口泰生 [75年度] 鈴木宣次 川畑 泰 原田高好 杉浦久也 大坪喜子 [76年度] 山下道子 [77年度] 土屋 隆 飯沼健真 渡辺晴子 [78年度] 沼田 眞 外池一子 加藤一郎 太田幸夫 渡辺昭夫 千本倅生 原田 泰 [79年度] 高遠 宏 中山行弘 [80年度] 三和義彦 小島 宏 中山恵津子 野村好弘 [81年度] 中臣 久 柿沢弘治 藤木典生 [82年度] 飯沼芳樹 永井道雄	原 裕視 吉田興亜 大喜多敏一 [83年度] 永野芳宣 加藤 剛 長谷川和夫 猪口 孝 篠野脩一 佐藤都喜子 上川陽子 小泉 明 高桑栄松 [84年度] 中村良廣 塚田 守 石田雅近 [85年度] 横山英世 浜野 潔 [88年度] 中村文隆 [89年度] 荒井幹夫 [90年度] 荏開津典生 小野嘉孝 [91年度] 高橋 豊 [92年度] 守島基博 谷口興二 [93年度] 広辺敏和 片桐庸夫 小林 光 [94年度] 加治 隆
--	--	--	---	---	--

1996年度日本EWCA役員

名誉顧問	井深 大 小林陽太郎	ソニー(株)ファウンダー名誉会長 富士ゼロックス(株)代表取締役会長
顧問	竹内 一樹 高沢 義行 三和 義彦 馬場 房子 太田 幸夫 神保 尚武	日本大学副総長 ノルディックジャパン代表取締役 平和・安全保障研究所客員研究員・日本大学講師 亜細亜大学経営学部教授 多摩美術大学教授・グラフィックデザイナー 早稲田大学商学部教授
会長	渡辺 晴子	アジア新聞財団/HKW代表
副会長	川畑 泰 斎藤 栄二 宮川 佳三	ジャパントイムズ報道部長 京都教育大学教育学部教授 南山大学外国語学部教授
担当幹事		
渉外	三浦 徹	横浜東急ホテル
組織	斎藤 勝彦	石炭資源開発(株)取締役
企画	土屋 隆	JETRO
事務局長・会計	浜野 潔	京都学園大学経済学部助教授
会計監査	鑑江 龍一	衆議院事務局渉外部

年度幹事(\* 新任、かっこ内は兼任)

61 永井 健*	70 桂 共太郎*	79 松田 薫*
62 大山綱夫*	71 坂場順子*	80 (松田)
63 泉 清人*	72 石塚嘉一	81 (松田)
64 湊 和夫*	73 勝呂 讓*	82 梅田純一
65 中村敦夫*	74 久米昭元*	83 牧野賢治
66 清水泰子	75 川畑 泰	84 石田雅近
67 野々垣武子	76 (土屋)	85 浜野 潔
68 仲野英志	77 土屋 隆*	86 阿部一知
69 神保尚武	78 (土屋)	87 西川正郎

### 30年記念リユニオンを終了して

中村 正枝(64)

平成7年12月2日から12月5日にかけて、1962年度から1965年度のイーストウェストセンターの日本人元奨学生がハワイにおいて30周年のリユニオンを行いました。

この計画は約2年前から、1963年度の奨学生である現在室蘭工業大学建築工学科教授の泉清人氏により提案され、同氏を中心に幹事会を組織し、計画が進められてきたものです。

参加者は主として当時のISI (Institute of Student Interchange) プログラムの下で、EWCで共に生活した仲間のうち31名とその家族30名、計61名でした。それぞれ北は北海道から南は沖縄まで、また北米はカナダやアメリカ合衆国からも10名の参加がありました。唯一の心残りは、発案者であり、実現の原動力でもあった組織委員長の泉清人氏が最後の段階でやむを得ない大学の職務上の理由から参加不可能になってしまわれたことでした。

リユニオンは12月2日(土)の朝10時から宿泊場所であるアラモアナホテル2階のCarnation Roomに集合して始まりました。この日は登録とEWCへの寄付金の募集、全員の自己紹介などで交歓の後、午後はホテルへのチェックイン、ひと休みして夕方からはオプションツアーながら殆ど全員が参加してのサンセットディナークルーズで予定を終わりました。翌3日(日)は、バスを仕立てて、「思い出のバスツアー」と称し、Hanauma Bayや、SeaLife Park、Nuuanu Paliなど懐かしい観光地を回りました。夜はアラモアナホテルのGarden Lanai

を会場に、Reunion Dinnerが開催されました。DinnerにはEWCのハワイ支部の方達と現在のEWC Executive BoardおよびEWC Board of Governorsのメンバーなどが15人程に加えてMrs. Sumi MakeyとMrs. Rose Nakamuraの昔お世話になったお二人も出席されました。

12月4日(月)は本番のEWCにおけるReunion meetingの日です。あらかじめこの日の為にEWCのAumni Officeと念入りな打ち合わせをしておいた通り、昔のJefferson Hall今のHawaii International Imin CenterのConference Hallにステージがしつらえられて居り、EWCの総長、Mr. Kenji Sumidaと副総長のDr. Bruce Koppelのスピーチ、そしてハワイ大学名誉教授Dr. Seymour Lutzkyのご挨拶を頂きました。日本側からも委員長代理の'63 斎藤勝彦氏の他、4名の代表演説('64 竹前栄治氏夫妻、'64 小林英治氏、'63 細松恭久氏)が行われました。

その後、Sumida総長の主催で昼食会に招かれ、席上参加者全員の心尽くしによる寄付金の贈呈を行いました。EWCが大変この企画を喜んで歓迎してくれたことが感じられ、心に残りました。

夜は、リユニオン最後のイベントでParadise Coveという観光客用のルアウとフラとフキラオと工芸品などの総合娯楽場へバスで繰り出しました。これで全員一緒の行動はすべて終了し、最後の日12月5日(火)はフリーで自由参加のEWC OPENと称したゴルフコンペ参加者

以外は各自おもしろおもしろに一日を過ごし、事実上の解散となりました。

個人レベルでは気楽に海外へ旅行する時代となっても、ハワイでのリユニオンという企画を実現するのはやはり何かと問題が多いことでしたが、結果はそれをはるかに上回る実り多いものであったと思われまます。アジア、大平洋

地域、米国などに元奨学生が大勢活躍していますが、私達のような形でリユニオンを行ったのは今回が初めてだということでした。他の国のEWC A支部の刺激になっているとも聞いて、嬉しく思っています。

### 会員の声

辛島篤美(63)

在職中の国立劇場に加えて新国立劇場(オペラハウス)の建設が進んでいます。多少かかっていますので、はりきっています。

竹前 栄治(64)

12月2日から30年ぶりにEWC Aリユニオンに参加してきました。現在、『GHQ日本占領史』全55巻の監訳と、全日本盲動犬使用者の会副会長として使用者の人権活動のために活動しています。

中村 敦夫(65)

現在、月刊・中村敦夫新聞を発行中。政治、社会、文化を個性とユーモアで斬りまくり、ミニコミ紙として拡大しています。どうぞ、ご愛読ください。

<連絡先 中村企画 03-5376-9553>

百武 博(65)

第15回アジア太平洋雑草科学会議の事務局長として成功を収めることができました。会議の

剰余金は東南アジア諸国の研究レベル向上のためタイでトレーニングコースを開催し、併せて研究成果の刊行補助に使うことに決定しました。タイのカセサート大学農学部で3年間研究に従事しています。

坂下 昌朗(66)

シンガポールのISI ASIAで働いています。こちらにお越しの折りはどうぞご連絡ください。

坂本 悠貴雄(74)

以下の本を出版しました。エッセイ集『変貌するアメリカ像』(英伝社)、英語ハイク集『滴状列島』(英伝社)

中臣 久(81)

昨秋、はじめての著書『実感!ベトナム経済』(日本評論社)を出版し、次なる目標であるベトナム経済についての英文入門・概説書の執筆に格闘中です。

## ケンジ・スミダ EWC 総長来日

イースト・ウエストセンター総長ケンジ・スミダ氏がセンターと日本大学が共催するシンポジウムのため3月初旬来日されました。多忙な日程の間でしたが、同友会会員との交流をはかるため、3月5日に夕食会が行われました。当日は、ハワイ側からはスミダ総長のほかりー・ジェイ・チョー副総長、アンドリュー・メイソン人口プログラム部長らが、同友会からは渡辺会長をはじめ、三和、馬場顧問らが出席されました。

スミダ総長からは連邦政府の予算削減によりイースト・ウエストセンターの運営が困難であることが報告され、日本の同友会へも協力が要請されました。一方、同友会会員からは新しいプログラムの開発などが提案されるとともに、日本からの参加者を増やすことが要望されました。

## 会費納入のお願い

本会の年会費は5,000円となっております。今回のニューズレターといっしょに振込用紙を同封させていただきますので、1996年度の会費納入にご協力お願いいたします。また、通信欄に近況などお書きいただければ幸いです(次号ニューズレターでも紹介させていただく予定です)。

## 編集後記

ニューズレター第15号をお届けします。例年4月ごろに発行していましたが、今回は編集担当者交代や事務局移転のため大幅に遅れてしまいましたことをお詫びいたします。なお、事務局に対するお問い合わせは下記までお願いいたします。

621 京都府亀岡市曾我部町南条大谷  
京都学園大学経済学部 浜野 潔  
TEL 0771-29-2301 FAX 0771-29-2389

ニューズレター 第15号

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会  
発行者 渡辺 晴子  
編者 浜野 潔